

赤十字NEWS

December 2015 Vol.907
<http://www.jrc.or.jp>



赤十字新聞 編集・発行／日本赤十字社 企画広報室 〒105-8521 東京都港区芝大門1-1-3 TEL:03-3438-1311 一部20円 赤十字新聞の購読料は、社費に含まれています。



パリの惨劇 救護・こころのケア

一般市民を標的とした無差別の襲撃により130人が亡くなり、約350人が負傷した11月13日夜のパリ市内の惨事。直後に緊急態勢を整えたフランス赤十字社は、救命救護班と340人以上のボランティアを全事件現場に派遣し、夜を徹した救護活動やこころのケアに当たりました。同赤のジャン・ジャック・エルジャム社長は「私たちの心は犠牲者の家族や友人とともにあります」と発言。公的機関が設置したカウンセリングセンターや電話相談などの支援にも取り組んでいます。

事件現場で負傷者の救護活動にあたるフランス赤十字社のボランティアとスタッフ

CONTENTS

TOPICS

福井赤十字病院90周年
歩いて知ろう！地域と赤十字の魅力
広報特使・女優 藤原紀香さんも応援
写真展「Families in war」
赤十字地方大会
常任理事会・理事会開催報告
健康豆知識 インフルエンザ

TOPICS

海外たすけあいへ
応援メッセージ
赤十字シンポジウム

SPECIAL

「NHK海外たすけあい」
対談
シリア赤×海外たすけあいユース
募金・イベントのお知らせ

AREA NEWS

愛知・和歌山・東京・福岡
熊本・徳島・京都・大阪
茨城・千葉・埼玉・兵庫
石川・静岡
競輪補助事業で
医療機器を整備
赤数字回答
プレゼント

WORLD

ラオス赤十字社の
血液事業を支援
アジア・大洋州OCAC
ラーニングフォーラム
『戦争と国際人道法』出版
コラム 被爆70年
守るべきいのちと尊厳

何の数字かな？ (最終回)
赤数字?
赤十字をイラストと
数字で見てみよう
155
答えは7面をご覧ください

今月の出会い



『14歳の兵士 ザザ』原作者
大石 賢一さん

マンガのチカラで世界をもっと平和に！

「子どもたちが銃を持ち、殺し合う。世界で起きているこの現実を知ってほしい」。赤十字国際委員会（ICRC）駐日事務所が企画したジャーナルコミック『14歳の兵士 ザザ』。原作者の大石さんは、作品に込めた思いについてこう語気を強めます。

作品は、アフリカのコンゴ民主共和国を舞台に、少年兵や性暴力などの人道問題を描いたもの。大石さんは昨年秋、現地で人道支援活動を行うICRCの協力の下、2週間にわたり同国取材してきました。「子どもの頃に親を殺された元少年兵の若者は、殺される前に殺す」と教え込まれ、人間を信用することがまったくできなくなっていました。性暴力の被害女性の中には、レイプが夫に知

られた結果、離縁されてしまった人も大勢います」

こうした現実を伝えるため、マンガの持つ表現力に報道の視点を掛け合わせたのが今回の作品。「新しい可能性を持ったマンガの新分野『ジャーナルコミック』を生み出しました」と言います。

実は『14歳の兵士 ザザ』の物語の進行役は、大石さんの分身である日本人。「登場人物という乗り物に乗って、ハラハラドキドキできるのがマンガの世界。一人でも多くの人に、僕の分身に乗ってもらい、アフリカ大陸での人道支援に挑んで欲しいと思います」

PROFILE

石ノ森章太郎さんの大ヒット作『HOTEL』（1984～98年）でマンガ原作者デビュー。その他の代表作にヒューマンドラマの『STATION』やレディースコミックの『朝倉くん、ちょっと！』など。近年はコミックプロデューサーとしてマンガとさまざまな分野のコラボレーションにも力を入れている。

福井 赤十字病院 創立90周年

歩いて知ろう！ 地域と赤十字の魅力

広報特使 紀香さんも応援

親子でウォークラリーを
楽しんで郷土と赤十字の魅
力を体験しよう！今年
4月に創立90周年を迎えた
福井赤十字病院は11月14
日、赤十字広報特使の女優・
藤原紀香さんと野球チーム
福井県民球団福井ミラクル
エレファント(BCリーグ所
属)の選手らを招いた「結ぶ
ぎずな健康ラリー」を開催
しました。

江戸時代中期につくら
れた福井医学学校から出発し
た福井赤十字病院は大正14年

4月、日本赤十字社福井支
部病院として開院。以来第
二次世界大戦や福井大地震
(昭和23年6月)などを乗
り越え、地域の基幹病院と
して救急医療や地域保健な
どの役割を担ってきました。
「結ぶぎずな健康ラリー」
は、同院のこうした歴史や
赤十字の豆知識、郷土の歴
史などのクイズをチェックポ
イントごとに解いていくもの
です。参加した小学生親子
124人は、藤原さんの「が
んばろう」の掛け声に合わせ



画面を見つめて、慎重に操作



© Ichigo Sugawara

講習の後、藤原さんは「赤
十字の考え方は難しいこと
ではなく、皆さんの心の中
にあるもの。今日の経験を身
近なところで行動に移しま
しょう」と子どもたちを激
励。ミラクルエレファントの
選手らとともに「赤十字キ
ッズサポーター」のバッジを
一人ひとりに手渡しました。
子どもたちからは「紀香さ
んに教えてもらった『AED
を使うことはとても大切』
ということを忘れないよう
にしたい」「赤十字マークは
のちを守ってくれるマーク。そ
の意味を知って、世界はつな
がっていると感じました」な
どの感想が聞かれました。

赤十字地方大会

和歌山、奈良が120周年記念

名誉副総裁から有功章授与

各都道府県支部による赤
十字大会は、それぞれの地域
で赤十字事業の推進に貢献
された方を顕彰する場とし
て開催されているもの。

11月には和歌山県、奈良
県などで開催されました。
和歌山県支部は、支部創
立120周年、和歌山医療
センター創立110周年、

血液センター創立50周年を
記念した大会を和歌山市内
で5日に開催。157件に
対し有功章などが贈られ、
ご臨席された日本赤十字社
名誉副総裁の寛仁親王妃信
子殿下から有功章が授与さ
れました。

創立120周年の奈良県
支部は、有功会設立50周年
を兼ねた記念大会を11日、
名誉副総裁寛仁親王妃信子
殿下ご臨席の下、奈良市内
で開催。金・銀色有功章など
が531個人・164団体
に贈られました。

18日に北九州市で開催さ
れた福岡県日赤紺綬会(※)
第56回総会には570人が
参加し、功労者29人に対し、
名誉副総裁常陸宮妃殿下か
ら有功章が授与されました。
「九州八県支部赤十字大
会」は今年度、鹿児島県で
19日に開催。鹿児島市内の
会場には常陸宮妃殿下ご
臨席の下、九州・沖縄から
1700人が集いました。
※赤十字運動を支える目的の下、昭
和34年に福岡で誕生した組織。

世界の紛争下で、 いま家族は――

写真展「Families in war」 (12月22～27日、神奈川・横浜市)

紛争地や避難キャンプな
どで暮らす家族に焦点を
あてた写真展「Families in
war」このライブラリン
グが12月下旬、横浜市内
で開催されます。写真展は
神奈川県支部が毎年開催
なを紹介しします。

しているもので、今年はキ
ヤノン株式会社の協力を得
ました。赤十字国際委員会
(ICRC)が世界各地の
紛争地などで展開している
人道支援活動と家族のきず
なを紹介しします。



© Jon Higgins/ICRC

会 場 みなとみらいギャラリーA・B・C
(横浜市西区みなとみらい2-3-5
クイーンズスクエア横浜クイーンモール2階)
日 時 12月22日(火)～27日(日)
11:00～19:00(初日は13:00開場)
料 金 入場無料

常任理事会開催報告

平成27年11月20日、本社に
おいて平成27年度第7回の常
任理事会が開催されました。
審議結果は左記のとおりで
す。

器更新にかかる資金の借入
4 理事会に付議する事項につ
いて
(徳島赤十字病院の増築工
事にかかる資金の借入)

記

1 規則の改正について
(日本赤十字社職員給与要
綱の一部改正及び日本赤十
字社院長等給与規程の制定
等にかかる規則の改正)
2 予算の補正について
(石巻赤十字病院の医療機
器更新にかかる医療施設特
別会計歳入歳出予算の補
正)
3 資金の借入について
(石巻赤十字病院の医療機

また、社員制度の改正方針
本社組織等の見直し及び予
算の補正にかかる9月分の社
長専決事項の決定状況につ
いて、それぞれ報告しました。

理事会開催報告

平成27年11月20日、本社に
おいて平成27年度第2回の理
事会が開催されました。
審議結果は左記のとおりで
す。

記

1 資金の借入について
(徳島赤十字病院の増築工
事にかかる資金の借入)
審議の結果、資金の借入につ

いては原案のとおり議決され
ました。
また、社員制度の改正方針
本社組織等の見直し、平成27年
度上半期事業報告、台風18号大
雨災害にかかる日本赤十字社
の対応、平成27年度NHK海外
たすけあい及び社長委任事項
の決定状況について、それぞれ
報告しました。

知って良かった！ 日赤のドクター&ナースが教える健康豆知識

①9インフルエンザ 早めの予防接種、受診で重症化を防ぎましょう 富山赤十字病院 感染管理認定看護師・看護師長 亀山礼子さん

インフルエンザの予防接種は済みましたか？ インフ
ルエンザの流行は、1月から2月ごろがピーク。いったん
流行が始まると、短期間に多くの人に感染が広がります。
ワクチンが効果を発揮するまでに接種後2週間はかかる
ので、12月中旬には接種を終えておきましょう。

「インフルエンザワクチンは本当に効くの？」という疑
問を耳にすることがあります。確かにインフルエンザウ
イルスは、毎年少しずつ変化(変異)するため、変異
が起きるとワクチンの効果が低下します。でも、ワクチ
ンには重症化を防ぐ効果があるので、高齢者や基礎疾
患のある方など重症化による合併症が懸念される方に
は、ワクチン接種をお勧めしています。

予防接種以外では、体の抵抗力を高めるための十分
な休養と栄養。そして感染予防の基本である手洗いとい
うがいを外出先から帰ったら、まず行ってください。ま
た冬季は空気が乾燥し、喉や鼻の粘膜の防御機能が低
下します。加湿器などを使用して、適切な湿度(50-60%)
を心掛けるとういでしょう。

インフルエンザは、高熱や頭痛、喉の痛み、筋肉痛
などの症状が突然現れることが特徴です。症状が出て
から2日(48時間)以降に薬の服用を開始しても十分
な効果が期待できないので、これらの症状を自覚した
ら早めに医療機関を受診してください。抗インフルエ
ンザウイルス薬には、飲み薬「タミフル」のほかに吸引薬

などもあります。いずれも優れた効果がありますが、「症
状が軽くなったから」といって途中で薬を止めないでく
ださい。インフルエンザウイルスは感染後3～7日間は
体内に残っているからです。同じ理由で、熱が下がって
も2日間は外出を控え、可能な限り仕事も休むようにし
ましょう。

注意していただきたいこととして抗インフルエンザ薬
を飲んだ子どもの異常行動があります。突然走り出し窓
から転落する事故なども過去には起きています。子ども
がインフルエンザにかかった際には、少なくとも発症か
ら2日間、保護者は子どもを一人にせず、目を離さない
ように配慮してください。



▲咳やくしゃみが出るときは、周囲
にウイルスを拡散させないエチ
ケットとして、マスク着用を忘れ
ずに！

富山赤十字病院
〒930-0859 富山県
富山市牛島本町2-1-58
TEL:076-433-2222 (代表)

映画「海難1890」

出演者のおふたりからも熱いメッセージ

明治23年に日本近海で発生したトルコ軍艦のエルトゥール号遭難事故。多くの乗員を救った日本人による救護活動はその後の日本とトルコの友好関係の礎になりました。この史実を題材にした映画「海難1890」(田中光敏監督・12月5日全国公開)の主演とヒロインのおふたりからも「海外たすけあい」への応援が届いています。



©2015 Ertugrul Film Partners

たとえ異国の人間であろうと、おしめない慈悲の心で必死になってその命を助けようとしたぼくたちの祖先。その行動の源には、家族のいる祖国に、愛する者のいる場所へ元気に返してあげたい。ただ、その一念が強く存在したのだと思います。赤十字の理念と、海外たすけあいの活動に我々「海難1890」のスタッフ、キャスト一同敬意を表しております。

医師・田村元貞役 俳優 **内野聖陽**さん



田村の助手・ハル役 俳優 **忽那汐里**さん

映画「海難1890」での撮影を通して、人々の真心が一つに向かって突き進んでいくことの偉大さを改めて感じました。

みなさまの暖かい思いやりが集まってそれがたくさんの方に届いていけば、素敵な絆がたくさん生まれると信じています。ご協力よろしくお願いします。

シンポジウム参加者などから届いた

海外たすけあい(12月1日~)

応援メッセージ

もし自分が難民だったら…、今夜安心して眠る場所がなかったら…みんながそうした想像力を働かせ、今中東で起きている問題を考えていくことが大切だと思っています。シリア難民への人道支援を行う資金が不足しています。赤十字による支援活動を支える「海外たすけあい」にぜひご賛同ください。



高橋和夫さん
(放送大学教授)

シリア国民の多くが「世界から見捨てられた」と感じている今、私たちは関心をもち続けることが大切。また、シリアなどの紛争地では大勢の市民がいのちの危機にさらされています。赤十字は、人道支援を行うため紛争地に入っていく組織の一つです。その活動を支える「海外たすけあい」に私も賛同します。



玉本英子さん
(アジアプレス・ジャーナリスト)

シリアで何が起きているのかを知りました。自分にできる支援方法を探していきたい。

シリアの人びとを支援するために一番簡単な方法は、募金に協力することです。誰にでも、すぐにできるのだから。

シリア支援の資金が十分ではないことが分かりました。できる限り協力していきたい。

自分に何ができるかを考えていくことが大切。一番身近な方法は募金に協力すること。みんなで協力できたらいいですね。

大学4年生
グループ



江原宏晃さん **栗嶋大輔**さん **栗原大貴**さん **戸田健太郎**さん

ヤマダ電機全店舗で、募金受付中！

家電量販店最大手のヤマダ電機は、全国の約700店舗に「海外たすけあい」の募金箱を通年で設置し毎年12月に寄付しています。きっかけは、2004年12月の「スマトラ島沖地震・津波災害」。その被災者支援に向けた店頭募金を通じて、日赤との信頼関係が築かれ、2006年5月から同社の社会貢献活動の一つとして取り組むようになりました。同社からは「買い物の度に募金協力をされるお客様も数多くいらっしゃいます。生活圏のすぐそばに店舗があるという全国ネットワークを生かし、店舗ごとの小さな支援をグループ全体の大きな支援につなげていきたい」と活動の手応えと抱負が寄せられています。



日本で暮らす外国人の母親たちが安心して生活できるよう情報提供などを行うNPOに参加しています。海外の紛争地での人道支援は難しい課題ですが、一人ひとりが向き合っていかなければいけませんよね。「海外たすけあい」は、私たちが取り組める人道支援活動。毎年協力させていただいています。



河合直子さん

人道支援での中立性の大切さなどを学びました。難民の方の苦しみなど実感が湧きにくい問題ですが、一人の日本人として知っていき努力が大切だと思いました。彼らの支援に向けて「海外たすけあい」などの募金は大きな役割を果たしていると思います。



斎藤亮子さん
(大学1年生)

斎藤典子さん
(大学2年生)

姉妹

赤十字シンポジウム2015

～中東人道危機と子ども・女性たち～

泥沼化するシリア内戦では、約400万人といわれる国外への難民が国際的に注目されていますが、国内にも約650万人が避難民として毎日危険と隣り合わせの生活を強いられています。日本赤十字社とNHKが11月7日に都内で開催した今年の「赤十字シンポジウム2015」は、中東人道危機の問題がテーマ。紛争が続く中での人道支援のあり方について議論を深めました。

シリアで支援を必要とする人は国内避難民を中心に1350万人。しかし450万人に十分な支援が届けられず、40万人近くは戦闘で包囲された街に取り残されています。国連人道問題調整事務所(OCHA)神戸事務所長の渡部正樹さんは「彼らの支援に必要な29億ドル(3500億円)のうち37%の資金しか集まっていない」と報告。また、「支援を届けるのに不可欠な紛争当事者との交渉が



赤十字シンポジウムは「海外たすけあい」の関連イベントとして毎年開催。今回のシンポジウムは11月28日にNHK(Eテレ)で放送されました

なかなか進まない」と課題を指摘しました。

こうした現状の下、シリア各地ではインフレや医薬品不足、停電、断水、貧困の拡大、学校に通えない子どもたちなど、あらゆる面で市民生活に深刻な影響が及んでいます。また、医療施設・従事者への爆撃や人道支援活動への攻撃など国際人道法違反(戦争犯罪)が後を絶たないこともシンポジウムでは報告されました。

日赤
×
NHK

海外たすけあい
苦しんでいる人を救いたい
—その思いを世界に届けます

12月1~25日

破壊し尽くされた街の中で逃げることもできず息を潜め暮らす人びと、突然の空爆や砲撃ですべてを失い祖国を後にする難民―世界で苦しむそうした人たちに支援を行うため、日本赤十字社とNHKが共同で取り組む募金キャンペーン「海外たすけあい」。今年も12月1日から25日まで全国でさまざまなイベント展開とともに協力を呼び掛けます。
寄せられた募金はアジア、中東やアフリカを中心に①紛争で苦しむ人②災害で苦しむ人③病気から身を守るため―の支援に役立てられます。皆さまの温かい寄付を心よりお待ちしております。

ボランティア対談

シリア赤×海外たすけあいユース

「シリアに関心を
持ち続けてください」

「海外たすけあいユースボランティア」。メンバーは首都圏の大学生ら11人。インタビューには、代表して磯部舜さん(東京理科大学1年)、田中友美乃さん(津田塾大4年)、渡辺真帆さん(明治学院大学2年)、木村有紀子さん(上智大学4年)の4人が参加しました。

約5年にわたる内戦で約25万人が亡くなり、人口の半数近い約1350万人が人道支援を必要としているシリア。「第二次世界大戦以降最大の人道危機」といわれる状況下のシリア国内で人道支援の最前線に立つのがシリア赤新月社(以下シリア赤)です。このほどシリア赤のボランティア救急隊員として活動するラワン・アブドゥルハイさん(29)とラガド・アドリさん(26)の2人が来日。「NHK海外たすけあい」のキャンペーン活動を行う学生ボランティア4人がシリア赤の活動などについて話を聞きました。

いのちをかけた
ボランティア活動

全員 こんにちは、ようこそ日本へ。最初にお一人が現在、携わっているシリア赤の活動について教えてくださいませんか？
ラワン 私は Damascus でシリア赤の文書管理課長として働いていますが、休日や平日の夜に負傷者の救急搬送、救援物資の配布やこころのケアなどのボランティア活動を行っています。
ラガド 救急活動の最中に激しい戦闘が始まっていますが、活動現場から身動きがとれなくなることがあります。本当に怖かったです。家を出るときはいつも、「これが最後になるかも」と思っています。

渡辺 危険にさらされながらも活動を続ける力はどこから生まれてくるのでしょうか？
ラワン 今回のシリアでは、どこを何をしていても常に危険と隣り合わせ。どちらにしても危ないのだから良いことをしたい。私は、人のために尽くすことが好きなんです。でも本

田中 紛争下の活動は危険と隣り合わせだと思いますが、

東日本大震災から
シリア内戦へ

渡辺 危険にさらされながらも活動を続ける力はどこから生まれてくるのでしょうか？

ラワン 爆撃が起きると一瞬に多くの人が負傷します。1回の出動で5人の負傷者を運んだこともあります。首都 Damascus 市内だけでなく、約1000人を病院へ救急搬送します。このような活動をシリア全土で展開しています。



爆撃直後の炎のそばで救急活動中のラワンさん(左奥)



東日本大震災時、気仙沼でボランティア活動を行ったラガドさん。人に手を差し伸べることの大切さを学びました



活動中、赤新月旗を掲げて攻撃から身を守る

活動の力は「中立」

ラワン 私たちは、政府の支配地域でも反政府勢力の支配地域でも同様、そこで苦しむ人びとに支援を届けています。その際、支援対象地を

活動の力は「中立」
ラワン 私たちは、政府の支配地域でも反政府勢力の支配地域でも同様、そこで苦しむ人びとに支援を届けています。その際、支援対象地を

困窮する市民生活

ラガド 私たちの暮らしは、他の地域に比べると落ちています。それでも停電は日常茶飯事。また、国内避難民の大多数が Damascus に集中している。食料が高騰しています。食料は紛争前の約7倍と、物価も高くなりました。人口増加に伴い車も

いま私たちに
できること

田中 とても深刻な事態だと改めて痛感しました。いま私たちがシリアの人たちのためにできることは何でしょうか？
ラワン・ラガド 私たちと同じ世界に生きている人間だということを忘れないでほしい。そして今シリアで何が起きて

渡辺 危険を省みず立ち向かっていく二人の勇気に感激しました。自分自身がボランティアとしてできることを改めて考

木村 同じボランティアでありながら、活動内容も使命感もレベルが違い、自分はまだだと痛感しました。

磯部 今日お聞きしたシリアの話の周囲に広がっていきたくて、また募金活動が続いていくことなど自分ができることを頑張っていくつもりです。
ラワン・ラガド 皆さんがシリアに関心を持ち、何ができるのかを考えてくれることが本当に嬉しいですね。ありがとうございます。

もっと知ろう！参加しよう！

●ハートキャンペーン

～たすけあいのハートで世界をつなごうあなたの手で～

Instagramに「#ハートキャンペーン」をつけてハートマークの写真を投稿！みなさんの行動で支援の輪を広げましょう。

まずは「Instagram」をインストール！
#ハートキャンペーンを検索



https://instagram.com/kaigai_tasukeai/

イベント

●「NHK サイエンス スタジアム 2015」入場無料

日時:12月5(土)、6日(日)午前9時(6日は10時)～午後5時

場所:日本科学未来館 東京都江東区青海2-3-6

NHKの科学番組が一堂に会した体験型科学フェスティバル。[NHK海外たすけあい]のブースを展開。

TV ●「あなたのやさしさを 2015」

日本科学未来館より 生放送

日時:12月5日(土)午前9時30分～9時54分[総合]

[NHK海外たすけあい]が集まった募金などのように世界各地で役立てられているかなどをお伝えします。

オークション

●「Yahoo チャリティーオークション」

日時:12月1日

日本赤十字社のクロスナウメンバー:藤原紀香さん、EXILE ATSUSHIさん他が私物を出品！ぜひ、オークションにご参加ください。

※特設サイトをご覧ください

オリジナルのしおりを全国で配布中です



日本赤十字社のイベント

本社「未来のトモダチへ」クリスマスリース・ワークショップ

フラワーアーティストの塚田有一氏を講師に迎え、フレッシュなモミなどを使ったクリスマスリース作りを行います。完成したリースは、後日、日赤が運営する児童養護施設「赤十字子供の家」に届けられます。

日時:12月12日(土)14時～ 場所:本社(東京都港区芝大門1-1-3)

参加費:3500円(参加者にはご自宅用のリースキットをプレゼント)

お申込み:メール kaigaitasukeai@jrc.or.jp (先着30人)

山梨県 日時:12月5日(土) 場所:JR甲府駅

小学生、高校生による音楽ステージ 地元ラジオでOA

鹿児島県 日時:12月23日(水・祝) 場所:天文館

NHK鹿児島児童合唱団のミニコンサート

島根県

日時:12月13日(日) 場所:いきいきプラザ島根

リサイクルバザー

輪投げやクリスマスカード作りができるキッズコーナーなど

※その他全国各地で活動を展開中です。詳しくは特設サイトをご覧ください。

募金方法はこちら

郵便局

各金融機関

インターネット

「口座番号」00120-5-2200

「口座名義」日本赤十字社

※窓口で手続きを行った場合、振込手数料はかかりません。(ATMをご利用された場合、振込手数料がかかることがあります)

携帯電話(スマートフォン)を利用

下記QRコードから「かざして募金」アプリをダウンロードして、日本赤十字社のロゴマークをかざすと、募金ができます。



かざして募金

紛争、災害、病気に苦しむ人への継続的な支援が必要です



詳しい情報はこちらをご覧ください。

「NHK 海外たすけあい」特設サイト: <http://www.jrc-kaigai.jp/>



あなたの支援でこんなことが実現します。

500円 → 避難生活での安らぎのためにマツ2枚

1000円 → 寒さから身を守るために毛布1枚

全国初！ 救急法の外国人ボランティア養成



愛知県

愛知県支部は9月の3日間、豊橋市で災害時通訳ボランティアに登録している外国人を対象に、母国語で赤十字救急法を教えることができる人材養成のための救急法救急員養成講習を行いました。外国人を対象にした養成は、全国初の取り組みです。

受講生はブラジル、ルーマニア、バングラデシュなどの13人。講習が終わってからも自主勉強する姿があり、約半数の方が合格しました。不合格になった方がたも「再チャレンジする！」と意気込んでいます。今後は彼ら自身が指導員の資格取得を目指し、日本語のわからない外国人住民に対して救急法を普及していきます。



同支部では、多文化共生社会の実現に向け、外国人住民に対する救急法の講習や防災学習などに力を入れています

生まれた時は小さくても愛情は大きく「Smileの会」



東京都

葛飾赤十字産院で10月17日、妊娠32週未満、体重1500グラム以下で産まれた赤ちゃんと家族のための同窓会「Smileの会」が開催されました。同会は平成15年にスタート。13回目の今年は28組の家族と学生ボランティア・スタッフの約100人が参加しました。

当日は月齢・年齢に近い子どものグループごとに分かれ、フリートークや心理士との育児相談を行いました。学生ボランティアによる託児スペースも用意。参加者からは「楽しい時間を過ごせた」「生まれた時のことを思い出して少しうるっとした」という声が聞かれました。学生ボランティアからは「新生児集中治療室を卒業した子が、退院後どのような生活を送っているかがわかった」などの感想が出ました。



参加したご家族と看護スタッフ。1年に1回、成長する様子を見てスタッフは元気もらっています

入院中の子どもたちが院内を「ハロウィーン仮装パレード」



熊本県

熊本赤十字病院で10月30日、入院中の子どもたちや職員が参加したハロウィーン仮装パレードが行われました。

子ども病棟の医療保育士が企画した今回のパレードは、外で季節を感じることが困難な子どもたちに、行事を通じて体で季節を感じてもらうというもの。また、Trick or Treat! 職員の仮装も気合が入っています! “嫌な治療をする人”という病院職員に対するイメージを払拭し、子どもたちと病院職員が交流を図ることも目的です。小児科の医師や看護師、子どもたちの家族など総勢30人が思い思いの仮装で院内をパレード。各所で職員がお菓子の代わりにシールをプレゼントするなど、笑顔の溢れる和やかなひとときとなりました。



Trick or Treat! 職員の仮装も気合が入っています!

近畿ブロック赤十字病院の研修会で金本氏が講演



京都府



関西では金本さんの人気は高く、参加者の好評を博しました

京都第二赤十字病院で行われた近畿ブロック赤十字病院の中堅職員研修会(10月14~16日)で、元プロ野球選手の金本知憲さん(現阪神タイガース監督)が講演しました。

金本氏は、新人の教育指導や中堅職員としての心得について、「何事にも諦めない心を持ち、継続することが大切だ」と、野球を通じて学んだことを交えながら熱く語りました。

ボランティア・フェスティバルに15団体



大阪府



今年のフェスタは「災害支援」がテーマ。東日本大震災義援金などの募金活動も実施されました

大阪府内の特殊奉仕団、青年奉仕団、防災ボランティアなど15のボランティアグループが集い、活動をPRする「赤十字ボランティア・フェスティバル」が10月4日、大阪市中央区で開催されました。各奉仕団は、歯科検診、ロープワーク、ハンドケアなどのブースを出展し、ステージでは芸能奉仕団による演芸も。来場者からは「こんなに多くの活動があるとは!」「この奉仕団の活動に参加したい!」などの声が聞かれました。

障がい者スポーツ大会で看護学生がボランティア



和歌山県

全国障がい者スポーツ大会「紀の国わかやま大会」(10月24~26日)で和歌山赤十字看護専門学校(和歌山県和歌山市)の1、2年生98人が選手団サポートのボランティアを行いました。

同大会は障がい者スポーツの全国的な祭典で今年で15回目。全国から約3500人の選手が集いました。看護学生はそれぞれの担当県の横断幕・旗・メガホンを作成。選手たちの練習の手伝いや応援、出迎えや見送りなど、さまざまなサポートに早朝から夜遅くまで奮闘しました。事前準備として、授業の合間に県の大会担当者らとの講習にも参加するなど、活動は大会前の22日から終了後の27日までの6日間にわたりました。



さまざまな障がいを持った選手との交流は、学生にとっても貴重な経験に

病院スタッフが地域の「認知症声かけ訓練」に参加



福岡県

全国的に増加傾向にある認知症高齢者の行方不明を未然に防ぐための訓練が11月3日、嘉麻市で行われ、同市唯一の公的病院である嘉麻赤十字病院の職員が「認知症役」として参加しました。

医療・警察・民生委員などの各関係機関が連携した今回の訓練は、認知症高齢者を地域全体で優しく見守り、気軽に声をかけていける街づくりをめざしたもの。認知症役のスタッフは「わたしは認知症です」「声をかけてください」という案内カードを提げながら約3キロのコースを2時間「徘徊」。小学生から高齢者まで幅広い年齢層の市民の方がたが次々に「どうされましたか?」「どちらに行かれますか?」と声かけの練習に参加しました。



道に迷っている認知症高齢者の方は、やさしく声をかけられることを待っています

アニメ×献血 「人助けは当然さ!」とコスプレイヤー



徳島県

徳島県最大のアニメイベント「マチ★アソビ vol.15」が10月10日から3日間、徳島駅周辺で開催され、全国から8万人のファンが集結。血液センターは献血バスを配車し、連日100人を超える方から献血協力をいただきました。

有名声優によるライブやトークショー、サイン会などが実施される同イベントでの移動採血も今回で7回目。恒例イベントの一つに成長しています。アニメキャラクターに扮したコスプレイヤーの一人は「アニメの中では弱い人を助けているからね。現実でも同じことをしたまです」と左腕を差し出してくれました。



若年層の献血者確保が課題になっていますが、マチ★アソビでは献血者の約8割が若年層!

「みんなで勉強したよ! 献血の大切さ」



茨城県



地域を支える人の役割と自分たちの関わりを調べるのが今回の学習の狙いです

つくば市立春日学園春日小学校4年生20人が10月15日、「ふれあおう!人與人」を学習テーマにつくば献血ルームに来所。献血の説明、採血室の見学、献血者へのインタビューを行いました。

献血ルームに来るのが初めてだった子どもたちは、緊張の様子でしたが徐々に質問も出はじめ、「機械がたくさんあって驚いた」という率直な感想も。最後には多くの児童から「大きくなったら献血に行きます」との頼もしい言葉が聞かれました。

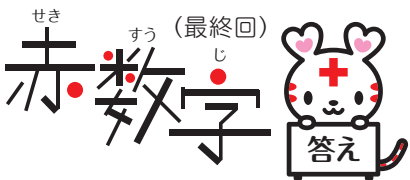
競輪補助事業で諏訪赤十字病院に医療機器を整備

日本赤十字社はこのほど、公益財団法人JKAから寄せられた競輪公益資金による800万円余りの補助金を活用し、人工股関節の手術に使う医療機器（CTベースドヒップナビゲーションシステム）を諏訪赤十字病院に整備しました。

JKAは、地方自治体が主催する競輪とオートレースの振興法人。日赤は、これまでも寄せられた寄付を活用し、全国各地の医療施設に医療機器や検診車などを整備しています。今回整備したシステムを使って手術を受けた場合は術後の脱臼リスクが減少する効果が期待されます。設置以降、10月20日までに11人の手術に使われ、リハビリテーション期間の短縮などが確認されています。



整備されたCTベースドヒップナビゲーションシステム



155カ国

「NHK海外たすけあい」で日赤が支援した国の数

日本赤十字社とNHKが毎年12月に共同で取り組む「NHK海外たすけあい」キャンペーンに過去32年間で寄せられた募金は合計231億1600万円余り。この募金を活用したさまざまな支援活動を日赤は世界155カ国で実施してきました。近年では、中東やアフリカの紛争犠牲者支援、アジアを中心にした各国の防災・災害対策、アジア・アフリカ地域の保健・衛生事業などに活用されていますが、過去には旧東ドイツやポーランドなど旧東欧諸国に支援を届けたこともあります。

初めてこのキャンペーンが行われたのは、昭和58（1983）年。国際赤十字創設120周年とテレビ放送開始30周年を記念し、単年度の企画として実施されました。10億4千万円という多額の寄付金が集まり、反響をいただいたことからその後は、毎年12月に「NHK歳末たすけあい」と共に行われることになりました。各地の赤十字奉仕団や青少年赤十字（JRC）のメンバーが工夫を凝らして取り組む街頭募金活動は年末の風物詩の一つになっています。

プレゼント

2016年版 赤十字カレンダーと手帳(各1つ)をセットにして5名様にプレゼントいたします。以下の項目を明記のうえ、郵送・FAX・メールでご応募ください。



- ①お名前（匿名をご希望の方は、その旨もご記入ください）
- ②郵便番号・ご住所 ③電話番号 ④年齢
- ⑤赤十字 NEWS12月号を手にされた場所（例／献血ルーム）
- ⑥12月号で良かった記事、興味深かった記事はどれですか？（いくつでも）
- ⑦今月の出会い ⑧ 福井赤十字病院90周年 ⑨ 赤十字地方大会
- ⑩ 写真展「Families in war」 ⑪ 常任理事会・理事会開催報告
- ⑫ 健康豆知識 ⑬ 「海外たすけあい」へ応援メッセージ
- ⑭ 特集 シリア赤×NHK海外たすけあいユースボランティア
- ⑮ エリアニュース ⑯ JKAからの補助金 ⑰ 赤数字 ⑱ プレゼント
- ⑲ ワールドニュース
- ⑳ 赤十字NEWSのご感想、扱ってほしいテーマ、その他 Voice（読者の声）への投稿もお待ちしています。

応募先 ● 郵 送／〒105-8521 東京都港区芝大門 1-1-3
日本赤十字社 企画広報室 赤十字 NEWS12月号プレゼント係
FAX／03-3432-5507
メール／koho@jrc.or.jp（件名「赤十字 NEWS12月号プレゼント係」）

応募締切 ● 12月28日(月) 必着
※当選者の発表はプレゼントの発送をもって代えさせていただきます。

「いのち救う技術を広げよう」 2県で救急法競技会



千葉県 / 埼玉県

いのちを救う技術の練習成果を競い合う救急法競技会が10月、千葉県と埼玉県で相次いで開かれました。

21日の千葉県での競技会には、地域奉仕団や特別奉仕団、青少年赤十字（JRC）メンバー1500人が参加。安全奉仕団の荒木英彦委員長は「参加者一人ひとりが、勇気を持っていのちを救うことの大切さを地域や学校で伝えて欲しい」と訴えました。

埼玉県は31日、草加市内の会場で実施。約400人が参加し、AED（自動体外式除細動器）を使った心肺蘇生と三角巾の2種目で正確さと速さを競い合いました。



担架搬送は傷病者役含め5人1組で実施。チームワークも大切です（千葉）



「救急法を競いながら行うのが初めてで緊張した」との感想も（埼玉）

災害現場での取るべき行動を看護学生が体験学習



兵庫県

姫路赤十字看護専門学校は10月8日、災害看護教育課程の一環として経験型学習「トレーニングセンター」を宍粟市生涯学習センターで開催しました。

トレーニングセンターは、学生の自主性や指導性、看護知識、看護行為などの技能に加え、経験を積むことを重視するもので、毎年実施。団体行動を通じた仲間との相互理解や災害救護活動への理解、災害時の基本的救護技術、行動力などを養います。

今年は基礎行動訓練のほか、救護所テント設営や応急処置、救護資機材の取り扱い方などを学習。震度6の直下型地震で多数の負傷者が出ていると想定した模擬訓練も行われました。



災害に二度と同じ現場はありません。「いざとなると思うように動けず悔しい」と話す学生も

初開催の金沢マラソン 赤十字ボランティアのAED隊出動



石川県

11月15日に初めて開催された「金沢マラソン2015」で石川県支部は赤十字ボランティア70人を「AED隊」としてコース各所に配置し、大会参加者の安全を見守りました。

AED隊の派遣にあたり同支部では「赤十字Save Lifeプロジェクト」を10月中旬にスタート。奉仕団員や青少年赤十字（JRC）メンバーらを対象にしたAED（自動体外式除細動器）の使い方などの研修を3回にわたり実施し、万全を期しました。



「赤十字Save Lifeプロジェクト」には延べ170人余りが参加

災害に備えスーパーで包装食袋販売 炊き出しイベントも



静岡県

静岡県支部は、県内の大型総合スーパーアピタ各店舗で包装食袋を使った炊き出しの実演&試食イベントを実施しています。その際、袋の入手方法について問い合わせが多いことから、同各店舗で包装食袋の販売を開始。初回製作分は1カ月で売り切れ、現在は予約販売に切り替えています。10月25日にアピタ浜北店で実施したイベントでも包装食袋の炊き出しは大好評。「アウトドアでも使えそう!」との感想も聞かれました。



包装食袋の使い方とレシピを同封して販売

小学校で「赤十字防災ひろば」を初開催



徳島県

吉野川市立川田小学校で10月9日、「赤十字防災ひろば」を開催。4～6年生の児童37人が参加し、炊き出しや応急手当、毛布を使った担架の作り方などを体験しました。

防災ひろばは、災害時の備えを児童が学ぶことを目的に本年度からスタートし、今回が1回目。参加児童からは「もしものときの備えを学べたので、焦らずに行動できると思う」と力強い声が聞かれました。



みんなで力を合わせて、毛布を使った担架だけが人を搬送

WORLD NEWS



ラオス赤十字社の血液事業を日赤が支援 血液製剤の品質向上と運営能力強化へ6カ年計画

「安全な血液を確保したい」というラオス赤十字社(以下、ラオス赤)の声に応え、2012年から始まった日本赤十字社の支援。日赤は血液製剤の製造方法の手順化などで協力し、ラオスでの血液の品質向上に寄与しています。

血液製剤の製造方法を手順化

東南アジアの一国、ラオスは日本の本州とほぼ同じ広さの国です。タイとの国境沿いに流れるメコン川や多くの山など、豊かな自然に恵まれた国土をもちます。

日赤はラオス赤からの要請に応じて、1995年に血液事業支援を開始しました。当時のラオスでは、輸血を必要とする患者は謝礼を渡すなどして供血者から血液を確保していました。しかし、日赤が数年間にわたって職員を現地へ派遣し、技術協力や資機材の提供を行った結果、2003年には首都ビエンチャンでは輸血用血液製剤を100%無償献血により賄うことができるようになりました。2012年からは6カ年計画で血液事業における品質保証機能と運営管理機能の強化に焦点を当てた支援を開始し、採血から血液製剤製造までの工程を標準

準化した手順書をラオス赤とともに作成しました。

2015年からは、この手順書に沿った運用を開始し、それに伴う教育訓練も実施しています。11月には日赤から技術職員を派遣し、地方の血液センターでの手順書の運用状況の調査及びアドバイスをを行いました。

安全な血液製剤を患者に届けたい

医師の資格をもつワンビルンさんは、ラオス赤中央血液センターの品質管理部門の職員で、地方の血液センターを指導する立場です。今回、ラオス南部サバナケット県にある血液センターを日赤の職員とともに視察。「日赤には以前、資機材の提供や技術協力をしてもらいました。日赤とともに私たちが作り上げた手順書に沿って業務を行うことで、さらに安全な血液製剤を多くの

患者に届けられると思います」と話します。視察後、ワンビルンさんは「手順書を守る重要性への理解を深める必要があります。私たちの仕事は輸血を必要とする患者のいのちに大きく関係しているという意識をさらに強く持ってほしい」とサバナケットの血液センターに要望しました。

ラオスでは、輸血に必要な血液製剤は患者の家族や病院職員が血液センターまで取りにきます。交通事故のため緊急手術が必要となったある患者の家族は「安全な血液を提供してもらえるのはありがたい。輸血をして孫のけがが治ってくれば本当にうれしい」と語りました。

今回の支援事業は2017年3月で終了予



日赤職員と手順書を参照しながら作業を進めるラオス赤職員(右から2番目がワンビルンさん)

定ですが、それまでにラオス赤が自らの力で品質の保証された安全な血液製剤を確実に供給できるよう、現地の実情に合わせた支援を継続していきます。

「アジア・大洋州OCACラーニングフォーラム」 各国赤十字の組織強化へ 各社のトップが集結

各国赤十字・赤新月社の組織強化を協議する場として「アジア・大洋州OCACラーニングフォーラム」が11月2日から4日、東京・港区の日本赤十字社本社で開催され、16の赤十字・赤新月社から社長、事務総長などの幹部29人が参加。情報交換やディスカッションを通じて、課題の共有化などを図りました。

赤十字の使命として、より多くの人に支援を届けるため、各社の組織強化を図ることは国際赤十字全体の課題になっています。そのツールとして国際赤十字が推進するのが「組織評価制度(OCAC)」です。組織の弱点を洗い出し、強化するべき部分を明らかにしていくもので、日赤を含む世界80以上の赤十字・赤新月社が導入。今回のフォーラムは、OCACに基づく自己評価の結果を活用した組織強化の実践を学び合っていくために開かれました。

会議では「地域に根づく活動へ支部活動を見

直し」(フィジー)、「政府の補助機関として赤十字に求められる役割を再考」(モンゴル)などの取り組みを各社が報告。その中で多くの社が、人びとにもっとも近い立場にある支部の活動・組織の強化、安定して支援を実施していくための財政基盤の強化などの課題を抱えていることが明らかにしました。



フォーラムでのワーキング・セッションの様子

読書

『戦争と国際人道法 ～その歴史と赤十字の歩み』

赤十字が誕生して150余年。赤十字と国際人道法は時代ごとに求められる課題に合わせて強化され、根絶不可能とされる戦争の中で、人道の実践という役割を果たしてきました。その歴史を「社会主義者と間違えられたデュナン」「赤十字に批判的だったガンジー」「消滅寸前だったジュネーブ条約」など、知られざるエピソードを交えながら分かりやすく解説したのが本書です。

著者は日本赤十字国際人道研究センターのセンター長を務める日本赤十字看護大学の井上忠男教授。「テロとの戦い」や「サイバー戦争」など新たな戦争の脅威に赤十字と国際人道法がどう立ち向かうべきかを考える上でも必読の一冊です。



東信堂、2400円(税別)
お問い合わせは、全国書店または
t-inoue@redcross.ac.jpまで

70年 被爆 守るべきいのちと尊厳 一核兵器のない世界へ

原爆に立ち向かった医師 都築正男

「爆心から二キロの地点には、まったく何もなかった。…我々は車を降りて、死の街の残骸の中をゆっくりと歩いた。(中略)都築教授は、血だらけの人々の前で身をかがめた。彼は意識の朦朧とした夫人を示したが、顔は熱波に打たれて焼けただれていた。『血液感染だ…白血球がほとんど消滅している…ガンマー線だ…防ぎようもない…今晚か明日死ぬだろう…原爆めが!』」(外国人医師として初めて被爆地広島入りした赤十字国際委員会駐日代表マルセル・ジュノーの手記『ドクター・ジュノーの戦い』(勤草書房)より)

ここに登場する日本人医師は、東京大学名

誉教授で日本赤十字中央病院(現日赤医療センター)院長を務めた都築正男氏。原爆症研究の第一人者として世界的に知られています。都築氏は初めて広島の被爆者に接した時のことを次のように記しています。

「広島でやられたという患者が一人、診察を受けに来了。…背中に少しかすり傷があった程度で、別にどここといって変わったところなかった。ただ非常に疲労していて、どうにもならないほど衰弱している。…いろいろ検査してみたのだがその結果、白血球の数が一立方ミリメートルの中に四百しかないという報告を受けて、私は驚いたのである。…これは大変な

ことになったと気がつき、本腰を入れてこの研究に取り組むことになったのである」(市川宏三「一世紀をめぐる栄光と悲劇 姫路名誉市民都築正男のこと」姫路文学人会議『文芸日女道』328号より)

人類史上初めて原子爆弾が使用され、その治療法を知るすべもなかった当時、都築氏はここに世界ではじめて原子爆弾症(原爆症)を認定しました。都築氏は機会あるごとに原爆症の事実を明るみにすることにも努めましたが、当時、原爆関係の事実には連合軍の機密事項とされ、都築氏の研究発表もその圧力を免れることはできませんでした。これに関する連合軍当局とのやりとりの中で、都築氏は次のような言葉を残しています。

「広島と長崎では、私がここで発言している瞬間においても、多数の被爆者がつぎつぎに死亡しているのだ。原爆症は、まだ解明されていない新しい疾患で、その本質を究明しな

いことには、治療を施す方法がない。たとえ進駐軍の命令だろうとも、医学上の問題について、研究発表を禁止することは、人道上、許されることではない」(広島市編『広島新史』より)

都築氏は1954年に第五福竜丸が被災した際にも医師として船員の治療活動に従事。スイス・ジュネーブの赤十字国際会議では被爆者の実態を世界に報告しました。原爆症の治療は「どうしても、悩む人々の心の内にとけこんで、調べなければならぬ事柄であると思う」と都築氏は言葉を残しています。

